

地図データの詳細情報

(令和3年4月現在)

データ名称		データ提供元	データ概要	前提条件等	表示範囲
旧版地図	明治 (M23～M43)	国土地理院 旧版地図(2万分1地形図、2万5千分1地形図)を使用	「旧版地図」は、明治時代から現代までに国土地理院が作成した地形図です。		愛知県全域
	大正 (T5～T9)				
	昭和初期 (S2～S29)				
	昭和中期 (S22～S45)				
	昭和後期 (S50～S63)				
	平成 (H10～H22)				
地理院地図(標準地図)	電子国土基本図	国土地理院ウェブサイト	国土地理院ウェブサイトにて公開されている地図データです。		日本全域
溜池・集落・旧河道	明治 (M23～M43)	国土地理院 旧版地図(2万5千分1地形図)をもとに作成	「溜池・集落・旧河道」は、明治時代に溜池、集落及び河道であった場所が分かる地形図です。		愛知県全域
陰影段彩図	濃尾平野 (5m)	国土地理院 基盤地図情報 数値標高モデル(5mメッシュ、10mメッシュ)をもとに作成	「陰影段彩図」は、地形を立体的に表現するため、標高ごとに異なる色と陰影を付けた地形図です。		濃尾平野
	愛知県全域 (10m)				愛知県全域
都市計画基本図	名古屋市 (H22)	名古屋市 H23.3 名古屋都市計画基本図を使用	「都市計画基本図」は、航空写真をもとに、地形、家屋及び道路等の状況を図化した地形図です。		名古屋市
用途地域図	名古屋市	名古屋市 R3.3.10 名古屋都市計画課より提供 背景地図: H23.3 名古屋都市計画基本図を使用	名古屋市都市計画情報サービスにて公開されている都市計画情報データです。		名古屋市
航空写真	名古屋市 (H22)	名古屋市 H23.3 名古屋都市計画写真地図を使用			名古屋市
地理院地図(航空写真)	航空写真(1988年～1990年)	国土地理院ウェブサイト	国土地理院ウェブサイトにて公開されている航空写真です。		東海地方周辺～ 名古屋市周辺
	航空写真(1979年～1983年)				
	航空写真(1974年～1978年)				
	航空写真(1961年～1969年)				
	航空写真(1945年～1950年)				
土地利用現況図	細分メッシュ (2016年)	国土交通省 国土数値情報/H28 都市地域土地利用細分メッシュデータを使用 背景地図: 国土地理院 旧版地図(2万5千分1地形図)を使用	「土地利用現況図」は、100mメッシュ毎に土地利用の状況(田、その他の農用地、森林、荒地、高層建物、工場、低層建物、低層建物(密集地)、道路、鉄道、公共施設等用地、空地、公園・緑地、河川地及び湖沼、海浜、海水域、ゴルフ場)を判別した地図です。		愛知県全域
国勢調査データ	人口密度 (2015年)	総務省 e-Stat/H27 国勢調査をもとに作成 背景地図: 国土地理院 旧版地図(2万5千分1地形図)を使用	「国勢調査データ」は、町丁目毎に人口密度と高齢化率を集計したものです。		愛知県全域
	高齢化率 (2015年)				

地図データの詳細情報

(令和3年4月現在)

データ名称		データ提供元	データ概要	前提条件等	表示範囲
将来推計人口	人口密度(2020年)	国土交通省 国土数値情報/H30 将来推計人口メッシュ (国政局推計)を使用 背景地図: 国土地理院 旧版地図(2万5千分1地形図)を使用	「将来推計人口」は、H27年の国勢調査等に基づき、R32(2050)年の人口密度及び高齢者数を1kmメッシュ毎に試算したものです。		愛知県全域
	人口密度(2050年)				
	人口増減(2050年/2020年比)				
	高齢者数増減(2050年/2020年比)				
南海トラフ被害想定(国)	震度(基本)	被害想定: 内閣府 H24.8 南海トラフ巨大地震の被害想定(第一次報告)を使用 背景地図: 国土地理院 旧版地図(2万5千分1地形図)を使用	「南海トラフ被害想定(国)」は、各地で想定される震度や液状化可能性について、1kmメッシュ毎に予測したものです。	地震動は、内閣府で検討された地震動5ケースのうち「基本ケース(基本)」と、揺れによる被害が最大となると想定される「陸側ケース(最大)」を想定しています。	愛知県全域
	震度(最大)				
	液状化(基本)				
	液状化(最大)				
南海トラフ被害想定(市)	震度(既往)	被害想定: 名古屋市 H26.2 南海トラフ巨大地震の被害想定を使用 背景地図: 名古屋市 H23.3 名古屋都市計画基本図を使用	「南海トラフ被害想定(市) 震度・液状化」は、各地で想定される震度や液状化可能性について、約50mメッシュ毎に予測したものです。	南海トラフにおいて、おおむね100~200年の間隔で繰り返し発生する地震として「過去の地震を考慮した最大クラス(既往)」と、千年に一度あるいはそれよりももっと発生確率が低い、仮に発生すれば甚大な被害をもたらす地震として「あらゆる可能性を考慮した最大クラス(最大)」の2つの地震を想定しています。	名古屋市
	震度(最大)				
	液状化(既往)				
	液状化(最大)		「南海トラフ被害想定(市) 津波浸水」は、満潮時に各地で想定される津波の浸水範囲について、約5mメッシュ毎に計算したものです。		
	津波浸水(既往)				
	津波浸水(最大)				
地震災害危険度評価図	建物倒壊の危険性(既往)	被害想定: 名古屋市 H27.1 震災に強いまちづくり方針/地震災害危険度評価図を使用 背景地図: 名古屋市 H23.3 名古屋都市計画基本図をもとに作成	「建物倒壊の危険性」は、建物構造及び建築年と、被害想定において地盤状況を考慮して計算された震度、液状化可能性により、建物が全壊する割合を街区毎に評価したものです。	建物構造及び建築年等は、H22年度都市計画基本図及びH23年度建物用途別現況調査を基に判断しています。 被害想定は、H26.2に名古屋市が公表した「南海トラフ巨大地震の被害想定」を使用しています。 地震災害危険度評価にあたっては、南海トラフにおいて、おおむね100~200年の間隔で繰り返し発生する地震として「過去の地震を考慮した最大クラス(既往)」と、千年に一度あるいはそれよりももっと発生確率が低い、仮に発生すれば甚大な被害をもたらす地震として「あらゆる可能性を考慮した最大クラス(最大)」の2つの地震を想定しています。	名古屋市
	建物倒壊の危険性(最大)				
	道路閉塞の危険性(既往)		「道路閉塞の危険性」は、被害想定をもとに、液状化を考慮し計算された建物全壊率から、沿道の各建物高さや道路の幅員を考慮し、道路が閉塞する確率(歩行避難通行が確保される幅員(2m)が残されない確率)を評価したものです。		
	道路閉塞の危険性(最大)				
	火災延焼の危険性		「火災延焼の危険性」は、建物構造・規模に応じて、各建物が燃えた際の延焼範囲を設定し、延焼範囲の重なる建物群(延焼クラスター)内の建物棟数を評価したものです。		
洪水・内水ハザード	名古屋市 名古屋市防災危機管理局 洪水・内水ハザードマップ 背景地図: 国土地理院 旧版地図(2万5千分1地形図)を使用	令和2年度 名古屋市防災危機管理局が発行している洪水・内水ハザードマップを使用して作成したデータです。		名古屋市	

地図データの詳細情報

(令和3年4月現在)

データ名称		データ提供元	データ概要	前提条件等	表示範囲
土砂災害データ	土砂災害特別警戒・警戒区域(土石流)	被害想定:愛知県 R2.3 砂防GISデータを使用 背景地図:国土地理院 旧版地図(2万5千分1地形図)を使用	「土砂災害データ」は、土砂災害(特別)警戒区域と土砂災害危険箇所を表示したものです。		愛知県全域
	土砂災害特別警戒・警戒区域(急傾斜地の崩壊)				
	土砂災害特別警戒・警戒区域(地すべり)				
	土石流危険流域・土石流危険渓流による危険区域				
	急傾斜地崩壊危険箇所等 地すべり危険箇所				
指定避難所・避難場所	名古屋市(2019年)	指定避難所・避難場所:名古屋市 R2.3 名古屋市提供資料を使用 背景地図:名古屋市 H23.3 名古屋都市計画基本図をもとに作成	「指定避難所・避難場所」は、名古屋市内の指定避難所、避難場所、津波避難ビルの位置を示したものです。		名古屋市
今昔写真		名古屋都市センター所蔵資料を使用	「今昔写真」は、その地点の過去(昭和初期)と現在(平成)の対比写真です。24地点の写真を観覧できます。		名古屋市
尾張名所図会		名古屋都市センター所蔵資料を使用	江戸末期から明治初期の名古屋のまちの様子を描いた地誌で、原本の一部を加工・着色したものです。46地点の絵図を観覧できます。		名古屋市
伊勢湾台風写真		名古屋都市センター所蔵資料を使用	「伊勢湾台風写真」は、当時の被害写真です。98地点(計484枚)の写真を観覧できます。		名古屋市